

市長記者会見記録

日時：2019年7月22日（月）14時00分～15時04分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：12月3日 川崎に浮世絵の展示室がオープンします（市民文化局）

【話題提供】JR南武線武蔵小杉駅にホームドアを設置します（まちづくり局）

<内容>

<12月3日 川崎に浮世絵の展示室がオープンします>

【司会】 お待たせいたしました。ただいまより、市長記者会見を始めさせていただきます。本日の議題は、「12月3日 川崎に浮世絵の展示室がオープンします」となっております。

初めに、本日の記者会見にご出席いただく皆様をご紹介させていただきます。まず初めに、公益財団法人川崎市文化財団理事長の多田昭彦様でございます。

【多田理事長】 多田です。よろしくお願いいたします。

【司会】 続きまして、公益社団法人川崎・砂子の里資料館代表理事の斎藤文夫様でございます。

【斎藤代表理事】 よろしくお願ひいたします。

【司会】 ありがとうございます。本件につきましては、まずご出席の3名様から順にご説明いただき、その後に質疑応答とさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。それでは、まず市長より、本事業の趣旨及び背景等について、ご説明させていただきます。市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 それでは、来る12月3日に、浮世絵の展示室を新たに開館いたしますので、概要についてご説明をさせていただきます。

本事業は公益財団法人川崎市文化財団と、公益社団法人川崎・砂子の里資料館、川崎市の3者の連携により実施いたしますことから、本日、川崎市文化財団理事長多田昭彦様、そして、川崎・砂子の里資料館代表理事の斎藤文夫様との共同会見という形で発表させていただきます。お2人におかれましては、大変お忙しい中、ご出席を賜りましたこと、改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

それでは、配付資料をご覧ください。私から資料の1枚目について、ご説明をさせていただきます。中段の囲みの部分ですけれども、この展示室でご覧いただける作品は、基本的に全て公益社団法人川崎・砂子の里資料館が所有する浮世絵コレクション

でございます。特性として、希少性の高い作品や、川崎にゆかりのある作品などが多数含まれ、国内外で高い評価を受けているすばらしいコレクションでございます。

このコレクションは、これまで私設の美術館である川崎・砂子の里資料館で公開されてきましたけども、平成28年9月に惜しまれつつ休館となりました。しかし、本市といたしましても、このコレクションを地域の歴史・文化資源として活用できると考えまして、活用方策について調査・検討を行い、昨年度、基本方針及び基本計画を策定いたしました。市が一連の検討を始めるに当たりまして、斎藤様に市の考え方を説明させていただきまして、ご快諾をいただき、大変ありがたいことに、作品を無償でお貸しいただけることもご提案をいただき、その内容も踏まえて、市と川崎・砂子の里資料館との間で基本協定を締結しております。こうした経過を経ながら、必要な施設整備を進めまして、このたびの発表に至ったものでございます。

先ほど申し上げましたとおり、本事業は、川崎市文化財団と川崎・砂子の里資料館、川崎市の3者の連携によるものでございます。具体的には、川崎市は必要となる展示室の整備を行い、川崎市文化財団には展示室の管理・運営を行っていただきます。また、川崎・砂子の里資料館には、展示に当たって所有する作品を市に無償貸与していただくとともに、展示の企画立案などの運営協力をしていただくこととしております。

展示室の開館により、本市の文化芸術振興施策をより一層推進するとともに、国内外からの誘客や回遊性の向上を図り、新たなにぎわいを創出して、本市の魅力を発信してまいります。

私からの説明は以上でございます。

【司会】 続きまして、公益財団法人川崎市文化財団の多田理事長様より、展示室の概要について、ご説明をお願いしたいと存じます。

それでは、よろしくお願いいたします。

【多田理事長】 川崎市文化財団の多田でございます。よろしくお願いいたします。

私からは、アートガーデンかわさき特別展示室の概要について、お手元の資料に沿ってご説明させていただきます。

資料の2枚目になります。まず開館日でございますが、令和元年、本年の12月3日といたします。また、前日、12月2日には内覧会を開催いたしますが、関係者の皆さん、そして、報道機関の皆様方には改めてご案内をさせていただきます。

次に、施設の名称でございますが、正式名称は「アートガーデンかわさき特別展示室」でございますが、弊財団では、対外的な呼称につきましては、「川崎浮世絵ギャラリー ～斎藤文夫コレクション～」とさせていただきます。なお、当展示室の名誉館

長といたしまして、公益社団法人川崎・砂子の里資料館代表理事でございます、同席をいただいております齋藤文夫様にご就任いただきます。

ロゴマークにつきましては、このようなマークにいたしました。藍色の下部ですね。ここは川崎の多摩川をイメージいたしまして、また浮世絵「六郷渡舟」に描かれております船頭さんをここは図像化したものでございます。

展覧会の開催予定につきましては、後ほど齋藤先生のほうからお話させていただきます。

次に、別紙1を御覧ください。展示室の概要でございますが、川崎駅前タワー・リパーク3階のアートガーデンかわさき内に特別展示室を開設しまして、約100平方メートルの展示スペースを活用いたしまして、企画展ごとに50点から70点を展示してまいる予定でございます。

休館日、開館時間につきましては、記載のとおりでございます、観覧料金につきましては、500円を予定しております。

当展示室の立地状況でございますが、御覧のとおり、利便性、特にJR川崎駅、そして、京急川崎駅から至便の距離にございまして、両駅合わせますと1日50万人以上の方が、乗降客がございまして、こうした利便性や、あるいは東海道かわさき宿交流館、あるいは近隣の大型商業施設との回遊性にも優れております。浮世絵の魅力やすばらしさを多くの皆様にお伝えする積極的な広報活動を展開しながら、より多くの皆様にご来館いただけますよう頑張りたいと考えております。皆様方のご協力をどうぞよろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、公益社団法人川崎・砂子の里資料館の齋藤代表理事様より、展示会の内容についてご説明をお願いしたいと存じます。

それでは、齋藤様、よろしく願いいたします。

【齋藤代表理事】 その前に、市長と多田さんにお礼を申し上げたいと存じます。16年間続きました川崎・砂子の里資料館、大勢の皆様方に毎月、遠くからも通っていただいておりますが、私ごとの事情によりまして閉館ということにいたしまして、大変残念がられておまして、あるときには横浜へ持っていかざるを得ないというような状況になりましたときに、たまたま市長がそれをお聞きいただきまして、これからのインバウンド対策、その他を考えたら、せつかくここに齋藤が頑張ってきたんだから、川崎でそれが展示できないか、お声をかけていただきました。私としては、もとより川崎で何としてもやりたいという意向がございまして、その結果、文化財

団の事務室であったところをご提供いただける。今、工事が着々と進んでおりますが、これ、ひとえに市長と、そして、文化財団、それぞれの大変なご決断とご協力があった。改めて敬意と感謝を表する次第でございます。

正式には12月3日からオープンされるわけではありますが、皆様方を中心に、関係者の方を12月2日、午前中ですが、お招きをしてご披露したい。せっかく披露するということでございますので、お借りしたアートガーデンの一部まで、例えば現在、アートガーデンが使っております第1、第2、第3展示室がございます。第1週は、第1、第2、第3、全部を使いまして、江戸初期、文字どおり今から300年前、浮世絵がこういうものであったという、菱川師宣の墨摺絵から、そして、いろいろ工夫をされ、手彩色から、あるいはそれが色重ねになっていって、やがて鈴木春信により多色摺り錦絵ができるまで約80年間、その間の浮世絵を展示して、皆様方に初期を見ていただく。そして、その大宗は、肉筆画を60本ほど各展示室に並べて、これぞ日本の宝、浮世絵というものを市民の皆様方にご堪能いただこうと。一会場で肉筆画六、七十本見られるというのは日本でもかつてない展覧会でございます、何としても名品を並べて御覧いただくように、今、準備をいたしております。

長くなってご無礼でございますが、第1か月目、12月から1月にかけては、ここにもちょっと出品がございますが、菱川師宣とか、あるいは懐月堂とか、さらには奥村政信等の初期の作品を並べます。この表にある鈴木春信の「風流やつし七小町」というのは7枚揃えでございます。世界でたったこれ一組、非常に評価の高い、本来なら重要文化財と言われている作品もご披露を申し上げますし、あるいは300年以上前に描かれた菱川師宣の「東海道分間絵図」なども全部、初摺りをお見せいたします。

次の2月は、次のページにございますが、ご存じ東海道と言えば広重、保永堂版の名品を56枚。55枚プラス、これには表紙絵というのがついておりまして、その表紙絵も展示をさせていただきます。

次に、3月は、江戸から明治というようなノスタルジーを感ずるような浮世絵をそれぞれまちの変貌とあわせて名品をお見せしたい。

4月、5月は、北斎が生誕260年、それを記念して4月、5月は大北斎展をさせていただきます。予定でございます。

大体以上が半年間の展示計画でございます。ぜひひとつ皆様方に広く、川崎にもインバウンド対策としても、これだけのすごい浮世絵常設館ができた。また、日本民族の宝でありますから、小学生、中学生、高校生にぜひとも多く見ていただくように、

できる限り立派な展覧会を継続してまいりますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。以上でございます。ありがとうございました。

【司会】 どうもありがとうございました。

それでは、本議題に関します質疑応答に移らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 よろしくお願ひします。

まず、斎藤先生、砂子の里資料館というのは3年前に休館ということだったんですけれども、閉館と考えてよろしいですね。

【斎藤代表理事】 はい。残念ですけど、家庭事情によって閉館をいたしまして、そして、おかげさまで川崎市のご好意によってすばらしい展示場を今つくっていただいておりますので、斎藤コレクションとして残してまいりたいと思っております。

【幹事社】 そして、今の肩書はこの公益社団法人の代表理事となりますけど、これは存続して、それで企画立案をそこで行って。

【斎藤代表理事】 はい。公益社団法人というのはご案内のように、なかなか認可が大変でございます。1回つくりまして、解散するときには市、県、国に全て寄附をしなければいけない、こういう大きな制約がございます。それだけに、また寄附をすると免税になります。私は今まで、自分の持っている作品を無償でこの自分の砂子の里資料館に寄附をする。そして、あと、毎月の資料収集や維持費は、私自身が毎月寄附をして維持をしてきているところでございます、おかげで作品も、今、4,000枚というのは、四千五、六百枚、今、実際、一々写真を撮って精査いたしておりますが、よくここまで集めることができたと思うくらい多くの作品でございます、まだまだ登録してありますのが約半分の2,300枚ぐらいが正式に国税庁認可になっておりますが、これからさらに今年内に2,000枚強、きっと2,000枚ぐらいは新たに追加をさせていただこう、こう思っております。

【幹事社】 そうすると、社団のほうでは、それを管理して、もちろんご自身のコレクションなので知り尽くしているのです、その中から企画展をしていくという形になると。

【斎藤代表理事】 さようでございます。

【幹事社】 それで、市長か多田さんか、どちらかあれですけど、整備費用は計画段階で出てきた額と変わりはないですか。

【市民文化室担当課長】 市役所の市民文化室です。

計画段階でおおむね整備費に関しては1億円ぐらいと見積もっております、この

たび、今年度契約をした結果としては、おおむねその1億円で整備を進めておりますので、契約どおりということでお答えさせていただきたいと思います。

【幹事社】 内訳の費用も大体こんなもの、ほぼ。

【市民文化室担当課長】 はい。内訳費用としても、ほぼ計画どおりでございます。

【幹事社】 それを踏まえて、それだけの投資をするということになりますけれども、市長は、今、斎藤理事からも斎藤コレクションという名前が出ましたけれども、そのコレクションについての評価というものを改めてまたおっしゃっていただければと。

【市長】 そうですね。斎藤先生からもお話ありましたように、御本人から言うよりも、浮世絵、あるいは芸術界、美術界の中では斎藤文夫コレクションというのはいますごいものだと。要するにこんなに個人でコレクションを持っておられる方というのはほかにいらっしゃらないぐらい。それも本当に名品ばかりを集めていらっしゃるの、それが川崎でずっと斎藤先生のご好意で無料で見せていただいていたものが28年の9月に閉まったと。その財産をこの川崎に生かさせていただけないかと、そういう形で力を貸していただけないかというふうな形で、今回ご快諾をいただいたわけですが、本当に国内随一のコレクションと言ってもいいぐらいのレベル感のものがこの羽田空港の至近のところで、国内のお客様はもちろんのことですけれども、国外からも誘客できるぐらいのものだと思っていますし、そういった意味で川崎の文化レベルというものをさらにランクアップさせるものになると期待しております、非常に私ども、箱を整備するということでやらせていただいているのは大変ありがたいことだと思っています。

【幹事社】 この入場料が、観覧料500円ということですが、この設定は当初のやつよりやや高いような気がしますが、この辺の設定については。

【多田理事長】 私どもで市の基本方針、それから、市の基本計画の中でさまざま調査をしたデータがございまして、そうした報告書を十分参酌いたしまして、このたび、観覧料500円とさせていただきます。

当初、類似施設、それから、駅至近の利便性などを含めて年間6万人程度のお客様さんが来るんじゃないかという調査結果でございました。ただ6万人で大変厳しいものですから、そのうちの、先ほど入館料の中で割引がございましたけれども、やはり小さな子どもですとか、これから川崎を背負う皆さんに積極的に御覧いただくということで、割引ですとか、無料ですとか、そういう制度を入れた上で大体ランニングコストに見合う入館料というものを設定したときに、500円という数字が出てまいりまして、こちらのほうで進めたいなと今のところ、考えております。

以上でございます。

【幹事社】 わかりました。どうぞ。

【幹事社】 幹事社からは以上です。各社、質問どうぞ。

【記者】 市長、インバウンドの効果を狙いになっているというお話がありましたけれども、具体的にはどういった効果、どんなふうな方に御覧いただきたいなという思いがあるか、改めて教えていただければと思います。

【市長】 もちろん今、浮世絵展をやりますと、私も先日、県立の博物館で行われました斎藤先生のコレクション、「横浜浮世絵」を見てまいりましたけれども、いろいろな浮世絵展をやると、すごく集客、国内のお客さんを集客すると。それぐらい人気の高いものですが、海外のお客さんも、浮世絵というのは大変人気。国によって大分違うというものはあるかもしれませんが、大変人気なものですから、そういった意味では、場所的にも先ほど申し上げたように空港から非常に近いということもありますので、また駅近ということもありますから、そういった意味で、日頃、川崎駅を利用している方も、あるいは国外から川崎に立ち寄れる方にも、非常に効果の高いものになるのではないのかなと期待しています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 先ほど年間6万人と見込まれているというのは、これは目標ということなのか、それとも、それぐらい集まってくるだろうと見込んでいるだけなのか、どっちなんでしょう。

【多田理事長】 目標、希望値を含めてだと考えております。類似の近隣の施設の大体年間入場者数、規模が違ったり、それから、料金が違ったりというところはあるんですが、そうしたものと川崎市、今回のギャラリーが持つ利便性、それから、東海道交流館との回遊性、それから、アートガーデンかわさきと一体になった運営ということで、アートガーデンそのものに年間4万人のお客様がいらっしゃっていますんで、有料ということも考えますと、その人が全部ということではないんですが、そういうことを含めて6万人ぐらいということで見込んでいるところでございます。

以上でございます。

【記者】 わかりました。先ほど近隣のほかの施設もという話もありましたんで、先ほど斎藤先生のほうからも、3月以降でしたか、北斎の展示をやるということもおっしゃっておられました。この辺の近隣だと、私、ちょっと北斎美術館ぐらいしか思い浮かばないんですけども、ああいうところとの例えば連携だとか、浮世絵というものをもうちょっと広域的に観光資源とするようなことは何か今、計画であったら教え

てください。

【齋藤代表理事】 これがいよいよ始まっていくわけですから、私には、本当に毎月何人おいでになるか、その辺のところはわからないので、精一杯、今の年間5万人計画を達成するようなイベントを次から次へと考えなきゃいけない。これは実は並大抵じゃないんです。でも、手弁当でそれを私のほうがやるものですから、こっちだって並大抵のことじゃなくて、一体こんな全てをやらされちゃかなわないと思いつつ、まだ学芸員さんも育たないものですから、私どものほうが専門のもう超ベテランを用意して、とにかくやっていかなきゃしょうがないと。

ただ、いかにも東京だ、横浜だと実はお誘いがあるんです。あるけど、そっちへ持って行って、川崎がね。せっかく自分の生まれたところでご恩返しに一生懸命、私は無料が好きなので、無料で見せていただければよかったけれども、市のいろいろ御関係で多額な御予算もおかけになることですから、だから、その運営費が出るような企画を単独でやっていくということ、これは本当に大変なことごさいます。

でも、それをやっていくだけの、また今、浮世絵に対する人気というものが大変なものでして、私自身がもうびっくりするくらいごさいます。加えてインバウンドの方々も、これは期待ができる。要するに羽田から、どうやったら川崎へそのために見に来てくれるのか。あるいは来年のオリンピック・パラリンピックにおいでになって、それでまた川崎へ、じゃ、ちょっと足を延ばしてやろう。そのためには、いろいろこれからそういう向きにPRをして、川崎駅を降りたら1分で日本民族の宝という浮世絵がたくさん見られるよ、そういうような。だから、オリンピック時にはやっぱりそれにふさわしいような、外国人が喜ぶような展覧会をやっぱり計画しなきゃいかんだろう。願わくば、子どもたちに本物を見せると。昨年、桐蔭学園ですごい美術館を持っていらっしゃる、子どもたちに本物教育をしていると。ついては浮世絵をというご要請をいただいて、持って伺いましたが、やっぱり本物を見てもらうということがどんなにか影響力があるか。

ちょっと余談になりますが、アメリカでやった時に、アメリカの大学生が絵の前でわーっと声を上げたんです。私は入口のほうにいて、何事やと思ってすっ飛んでいきましたら、北斎の「神奈川沖波裏」で、それでもってわーっと言って、2人ぐらいでびっくりしているんです。「何で驚いた」と言ったら、「ハイスクールの教科書でこの絵を見た。これ、オリジナルか」と、「もちろん。イエス、オンリー・オリジナル」とやったものですから、もうまさに感激してくれた。そういうことで今、北斎が例えばアメリカの『ライフ』が人類1,000年の歴史の中で発展に貢献した人、その100

人の中に驚くなかれ、北斎が入っていた。この事実をもってしても、今いかに浮世絵の人気の高いか。

去年、ローマで頼まれて北斎展をやりました。もう北斎の「神奈川沖波裏」をバスにラッピングして、バスが走っている。それでたまたま今年見た展覧会で、何というんでしょうか。テレビを見ておりましたら、ローマのご婦人に、「あなたは日本を知っていますか」と言ったら、「知っています」、「何を知っているんですか」と言ったら、「私はこの間、北斎展を見て、北斎という人を知っている」というくらい、本当に北斎と言えれば泣く子も黙る、そんな状態でございます。

そのかわり北斎の「神奈川沖波裏」は去年、ニューヨークでオークションで1億5,700万、もう我ながら手が震えるくらいでございます。そういう名品をそれぞれ毎月並べてウエルカムをすれば、外国人対応はインターネットその他でもやってみたいと思いますが、相当大勢の方がおいでいただけるんじゃないかと。とにかく京浜間で駅から1分、そんなところで。だから、羽田から大師線でも何でもちょっとご利用いただければ、小1時間でその浮世絵が見られる。飛行機の待ち時間にもおいでくださいというPRもしたいと、いろいろ旅行社とも考えて、インバウンド対策により力を入れてまいります。

何と云っても、でも、皆さんの日刊紙で美術館等、いろいろお書きいただいたり、PRをしていただいています。是非ひとつ毎月、少し大き目にPRをしていただければ、貴重な資源、よろしくお願いを申し上げます。

【記者】 ありがとうございます。

【斎藤代表理事】 もうちょっと話させていただくと、実は、本当にどうしてこんなに集まったのって、私も政治をやっている金がなかった、なかったと言いながら、本当に無我夢中で集めたのは事実なんです。でも、ふと振り返ってみますと、これが世界で1組とか、ボストンミュージアムとこれとこれは1枚ずつとか、これ、世界に3枚しかないとか、あるいは、これ、世界で1枚とかそういう作品がいつの間にか集まっています、それは日本の浮世絵学者が世界をいろいろ調査されて教えていただくわけです。たまたま話題になるのは、ボストンミュージアムに有名なドガが持っていた日本の清長の「女湯」という江戸時代の女性のお風呂場の絵がございます。これはドガが持っていたのが、今、1枚、ボストンミュージアムにあるんです。日本の学者が行って、これは手が入っていますね。実は、天明美人が、あの時代の日本人というのは6頭身ぐらいなのが、清長という絵描きの描いたのは9頭身美人なんです。その9頭身美人の真っ裸の姿が描かれている。だから、宗教的な意味で、ドガはそこに手を入

れたんですね。

ですから、ボストンミュージアムのその作品紹介は、ここ3年来、日本人の学者が行って、「オリジナルは川崎・砂子の里ミュージアムにある」、こう言ったものですから、さすがにボストンミュージアム、すぐに「本作品のオリジナルは川崎・砂子の里ミュージアム・イン・ジャパン」と書いているのをうちの司書がインターネットで調べて、奇声を上げて、これまた、「先生、大変です」と言うので、びっくりする。そのくらいの作品が何点もございまして、去年の大英博物館の北斎展で、どうしても貸せと言われたのは、世界に3枚しかないという「本牧沖の波」というのなんです。これは、神奈川沖の波を描いた、30年前に北斎が海の波を描いている。それが3枚しかない。その1枚が私のほうにあるものですから、ぜひそれを貸せと言うので、大英博物館にもお貸しをした、そういういきさつ等がいろいろございます。

そういう作品を何と二、三十点、実は持っております、これをいろんな機会を通じて市民の皆さんにお見せできるのは、コレクターとして、これにすぐる光栄、幸せはない、どうぞ応援をしてください。お願いいたします。余計なことを言いました。

【市長】 いえ、ありがとうございます。

【記者】 理事長にお伺いすることになると思うんですが、こうした浮世絵に特化した博物館、美術館というのは、県内とか市内とか関東圏でどれぐらいあるものなんでしょうか。初だったりするんでしょうか。

【斎藤代表理事】 それ、僕が言いましょうか。神奈川県では、浮世絵常設館は、私も顧問を仰せつかっていますが、藤沢にございます。あと、東京で常設館は太田美術館、北斎館、それに平木美術館というのがあるんですが、これは大変なコレクションなんです、常設する場所がなく、頼まれれば、あちこち展示会をやる、こういうことで、そのほか、河鍋暁斎の展示館が埼玉にあります。それから、千葉に行って、ちょうどこっちと反対側ですが、師宣美術館、それから、もう1カ所、千葉に浮世絵常設館があります。あとは、その都度のイベントで、町田の版画館とか何かがおやりになります。私も考えてみれば、川崎市市民ミュージアムでやり、三菱一号館でやり、あるいは神奈川県内なら平塚美術館、茅ヶ崎美術館、湯河原美術館、県内でも頼まれれば、コレクションを20年間の間にあちこち持って行って展示をしております。

ただ、太田美術館というのは群を抜いておまして、これは確かに私たちも年に何回かは伺いますが、明治神宮の参宮のそばにございまして、それが個人美術館としては最高峰と。あとは、それぞれの展覧会を単独であちこちでやります。京浜間の常設館というのは、川崎が1カ所ということになります。以上です。

【市長】 ありがとうございます。

【斎藤代表理事】 読売さんの美術館一覧表あります。あれに絶対に、これ、入れていただきたい。今度は皆さんのところに、そういうお願いを。

【司会】 ほか、いかがでございますか。よろしいですか。ここで写真撮影に移らせていただきます。恐れ入りますが、お三方は御起立をお願いいたします。記者の皆様も前のほうにお出になってください。

【斎藤代表理事】 この船頭の腰だめでやっているのをデザイン化したのがあちらの絵でございます。

【司会】 大丈夫ですか。ありがとうございます。それでは、本件につきましてはこれで終了とさせていただきます。多田様と斎藤様につきましては、これでご退席となります。どうもありがとうございました。

【斎藤代表理事】 よろしく申し上げます。どうも皆様、ありがとうございました。よろしく願いいたします。

【司会】 ここでレイアウト変更させていただきますので、しばらくお待ちください。

《 JR南武線武蔵小杉駅へのホームドア設置について 》

【司会】 お待たせいたしました。それでは、話題提供といたしまして、「JR南武線武蔵小杉駅にホームドアを設置します」につきまして、市長よりご説明いたします。市長、よろしく願いいたします。

【市長】 それでは、JR南武線武蔵小杉駅のホームドア設置についてお知らせいたしますので、配付資料を御覧ください。

武蔵小杉駅については、朝夕の通勤・通学のピークにおけるホーム上の早急な安全対策に向け、本市とJR東日本の両方で協議を重ねてまいりました。本市では、ホームドアの導入促進に向け、補助制度を設け、取り組んでいるところでございます。

このたび、同制度を活用し、南武線の中で、武蔵小杉駅を最優先に整備していくことを両方で確認をいたしました。整備スケジュールとして、下段にありますように、令和2年度に製作に着手し、令和4年3月の設置完了に向け、同社と連携しながら取組を進めてまいります。

また、川崎駅、武蔵溝ノ口駅、登戸駅に関し、可能な限り早期に設置していくことの基本的な方向性を確認したところでございます。

あわせて、南武線のその他の駅や市域内の各路線のホームドア導入促進に向け、引き続き鉄道事業者働きかけ、一層の安全性の向上を図ってまいります。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいまご説明いたしました件とあわせまして、市政一般に関する質疑応答に移らせていただきます。進行につきましては、引き続き幹事社様、よろしくお願いたします。

【幹事社】 最も基本的で大変恐縮なんですけれども、補助制度というのをごく簡単に説明してください。

【市長】 本市では、かかる費用の12分の1を補助するスキームがございます。まず、鉄道事業者がその費用の2分の1、国が3分の1、県が12分の1、川崎市が12分の1、こういう補助スキームがございますして、大体これまでの補助金の実績として、車両編成ですとかホーム構造上の駅ごとに差異はあるんですけれども、1駅当たり1,800万円から5,100万円程度を交付している、そういう状況でございます。

【幹事社】 その額は12分の1がその額ということですか。

【市長】 そういうことです。

【幹事社】 だから、全体だとその12倍になるんですかね。

【市長】 はい。

【幹事社】 それで、武蔵小杉駅のホームドアは、どんなものと言ったらあれですけど、ごく普通のホームドア。種類がいろいろあるみたいですけど、どんなものができるんでしょうか。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 まちづくり局交通政策室です。構造につきましては今後検討していきますので、まだ決まっております。

【幹事社】 そうすると、全体額もまだ決まってないんですか。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 はい、その通りでございます。

【幹事社】 基本的には、整備しますということが決まったと。その細部について、今後詰めて、このスケジュールでできると。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 はい。

【幹事社】 このスケジュールにのっとってできると。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 その予定でございます。

【幹事社】 それがJRとの話し合いで決まったということですね。

【市長】 はい。

【幹事社】 ほかのところについては、JR側も何年までにいくつ作るとか計画はもう発表されていると思うんですけど、当然、それより早くというような意味合いですよ。

【市長】 今、JRにおいても、1日の乗降者数が10万人以上の駅を優先して整備を進めるということで、先ほども申し上げましたけれども、川崎駅とか、(武蔵)溝ノ口駅、登戸駅も10万人以上ということでありますから、これについては最優先で進めていくことになっております。まだ時期については詳細には決まっておられませんけれども。

【幹事社】 JR側が、確か、(整備の) 目途を出していたような気がするんですが、何年度まで、ここ10年、大きな。それよりも早くという意味ですよ、これ。

【市長】 その詳しいニュアンスを。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 JR東日本から報道資料がございまして、南武線につきましては、2020年度から2025年度までに整備する路線として位置づけられております。

【幹事社】 早期に設置の基本的な方向性を確認しましたということは、それよりも早目にしてくださいというような意味合いでいいですよ。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 その中で早期に設置するという形になってございます。

【幹事社】 一応、方向性は確認されたということで。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 その通りでございます。

【幹事社】 同じく幹事社です。

武蔵小杉駅については、南武線もそうですが、横須賀線ホームの混雑が非常に大きな問題になっています。以前から、JR東日本さんのほうでは、横須賀線方面については、停車する列車のドアの位置がばらばらなので、なかなかホームドアの設置が難しいというご説明をされていることは承知はしているんですけども、横須賀線のホームについては、市から一応、できるだけ早く設置をしてほしいというような要望をされたのかどうか、その辺をお聞かせいただきたいんですが。

【市長】 まず、横須賀線については、これまで1面2線だったものを、もう1個新しくホームを作って2面2線にするということ、そして、新たな改札口を作るということで、混雑緩和の対策を打ち出したところでございますので、そういったことで安全対策を図っていくというところで今進めています。

【幹事社】 そうしますと、ホームが増えることによって、ある程度混雑が緩和されるので、それほどホームドアの設置について緊急性はないというご認識でよろしいのでしょうか。

【市長】 総合的なものがあると思うんですけども、ホームにホームドアを付ける

と、さらに立っているエリアが狭くなるということとか、総合的な判断の中から一番適切な方法を選んでいると私は理解しております。

【幹事社】 わかりました。あと、市の補助制度によって既にホームドアを設置した駅というのは、どこになるんですか。

【市長】 設置済みが2駅ということでしょうか。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 はい。1日の乗降客数が10万人以上の駅を補助の対象としていますので、その中で設置した駅につきましては、東急電鉄の武蔵小杉駅と武蔵溝の口駅の2駅でございます。

【幹事社】 既に設置済みがその2駅で、あと、それ以外にもう既に補助が決まっている駅はあるのでしょうか。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 京急川崎駅が今年度完了の予定でございます。

【幹事社】 京急川崎駅は本線の。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 本線のみです。

《第25回参議院議員通常選挙について》

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。あと、市政一般もよろしいですか。じゃ、市政一般についてもお伺いします。

参院選の投開票が終わりまして、全議席が確定しました。今回の参院選の結果について、市長は、どういうふうを受けとめられたのか、お聞かせ願えますでしょうか。

【市長】 一言で言うのは、関係者に失礼に当たっちゃいけないかなと思うんですけども、あまりサプライズもなくという形で、何となく順当な感じだったのかなと、予想の範囲内という感じは受けています。

【幹事社】 予想の範囲内というのは、具体的な政党や政治団体の名前を出すのは差し障りがあるかもしれませんが、例えば、NHKから国民を守る党が議席を獲得したことでとか、あるいは、れいわ新選組が2議席獲得した上に得票率も2%を超えて政党要件を満たす状態になったというようなことも含めて、想定内の範囲内だったのでしょうか。

【市長】 ご質問の2つのところについては、かなりサプライズではありましたが、大枠で言うと、与党がこのぐらいだろうとか、野党はこういう感じだろうなどというのは、何となくそういう感じかなと個人的には思っていた範囲の中かなと。今おっしゃったような例外的なところは、正直、びっくりしたというのはありますけど。

【幹事社】 そういうびっくりしたようなことが起きた背景を、どうお考えになりますか。

【市長】 どうなんですかね、私もよく分析できていないんですけど、どれにも当てはまらない一定の層がいるということなんではないでしょうかね。答えになってないんですけど。既存のところにはおさまらないけど主張をしたいというか、1票に託したいというところはあるのではないかと思いますけれども。それにしても、投票率が低かったですよね。県内でも50%を切っているというのは、かなり危機的だと思いますし、盛り上がってなかったのではないかなと思います。

【幹事社】 ありがとうございます。幹事社からは以上ですので、各社どうぞ。

《神戸市におけるタワーマンション規制について》

【記者】 先ほどのホームドアに関連していると思うんですけども、神戸の人口、川崎を抜いて、その神戸市ではタワマンの建設を規制していくという方針を打ち出したんですけども、現時点で市長は、川崎でのタワマンのあり方はどのようにお考えになっていますか。

【市長】 規制という意味ですか。

【記者】 それも含めて。

【市長】 現段階で何か、神戸市さんのような規制を加えていくとかということは検討しておりません。

【記者】 今後、まだ増えてくる棟、もう予定されている棟っていくつかあると思うんですけども、今後さらに増えてくることについては、どのように予想されて。

【市長】 これから、ものすごく増えるというのはあまり考えづらいのかなとは思いますが。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【市長】 余談ですけど、神戸市長とも市長会で会った時に、こういう課題もあるよねというふうな、タワーマンションも含めて雑談ベースではいろんな話をするので、問題意識というのはお互い共有する部分はあるんですけども、それぞれのまちの特性だとか状況は違いますので。

【記者】 わかりました。

《JR南武線武蔵小杉駅へのホームドア設置について》

【記者】 ホームドアのことでお伺いしたいんですけど、私もJRさんの発表資料を

見ている範囲でしか全体の状況はわからないんですが、印象的には、都内での整備は、特に23区内での整備は結構前倒しというか、先日、4月あたりに、たしか発表があったような気がしますが、進んでいる印象はあるんですけど、23区外になると、ちょっと慎重というか、足が鈍いというか、そんな印象は持っていて、今回、南武線武蔵小杉の話は2022年度に設置完了ということで、確かに2025年度、20年から25年度までに10万人以上は整備を進めるという計画だったと思うんですが、そういう意味では前倒しとは言えないのかなとも思っていて、既存の計画の範囲内なのかな。ホームドアの市内のこういう主要駅でのJRさんの取組というものについて、現状、どういうふうに御覧になっていらっしゃるか。

【市長】 これまでも勉強会ですとか、あらゆる場面を通じて、市でも補助をさらに上乘せしてでもやりますよということをいろんな形で（JR東日本に）打診してきました。そういう中で、JRの全体計画があり、その中で優先順位をどうしていくというのが、ある意味、武蔵小杉駅を最重点でスケジュール感を決めて動き出すというのは、今ある状況の共通認識が非常に高まってここに至ったということです。そういう意味では、よくご理解いただいていると思いますし、さらに連携して、できるところは、スピードアップできるような形（を進めていく）。この前の新設のホームの話もそうですが、なるべく前倒しできるような、そういう取組をお互い協議の上でやっていきたいという思いを持っています。

【記者】 なるほど。先ほどから、基本的に乗降客の多い駅に設置するというのですが、それも通勤対策ということなんでしょうけれども、障害者の方に対するアクセシビリティの向上という側面もあるのかと思います。そういう意味では、基本的には鉄道駅にはあるべきだということをおっしゃる方もいらっしゃいますし、そういう意味で、障害者施策という意味でのホームドアの設置というのは今後どういうふうにしていくのか。JRさんとの交渉事でもあるんですけども、市としてはどういうふうにしていくのか。

【市長】 やはり安全対策を進めていく鉄道事業者の取組というのは、私たちもしっかり補助という形で応援していくということですけども、いずれにしても、今、（市の）補助の額を見ていただいただけでも12分の1、事業者としても半分は負担しなければいけないというのも相当高額なものになる。場所によっては、ホームの躯体自体にやはり手を入れていかななくてはいけない。荷重がかなり重いと聞いていますので、それに手を入れるとなると、さらに費用が増してくるということを考えますと、必要性は誰もが認識しているところですが、そこを実行ベースに移していく段階で、やは

り優先順位を付けていかなければならないということだと思っていますし、そこは私どもも一定理解をしているところです。

《川崎港の利用促進等のためのタイ、ベトナム訪問について》

【記者】 話は変わって、先週、海外視察に行っておられたと思います。行かれての所感と、得られたことが何だったのかということをお聞かせいただければ。

【市長】 まず、ポートセールスに関しては、幾つかの事業者を回らせていただいて、具体的な細かな話は取引のことになりますので、なかなか申し上げられないんですが、新たな製造ラインを作って増設される場所もございまして、そういったところに働きかけをして、いい感触をそれぞれに得ているという感じです。有意義な意見交換ができたと思っています。

ダナンについては、新しい港長ともお会いできましたし、また、ダナンの市長に当たる人民委員会の委員長、副市長等々、関係者の皆さんともゆっくりと意見交換することができたので、港だけではなく、幅広いお付き合いをこれからやっていきたいと思いますという話もしました。いい関係づくりだったのではないかとはいっています。

それから、非常に興味深かったのは、ベトナムでの大学、日本語学校、送り出し機関というのを巡ってきましたけれども、やはり私どもでこういうことを検討していかなければいけないという具体的なものが皆さんから出てきて、大変参考になりました。これを持ち帰って早く検討して、また皆さんとお話ししましょうという形になったので、早急に課題を整理して取り組んでいきたいという思いはあります。という意味では、非常に有意義な視察だったと思います。

【記者】 ベトナムでの視察で、例えば、どんな要望が現地で上がって、ああ、それは気づかなかつたねと、市長、気付かされたことがあったら教えてください。

【市長】 やはり都市によっては、介護人材を専門的にとくと言う方もいらっしゃるんですけども、やはり川崎の土地柄からして、介護人材だけでなく、幅広い製造業だとか、あるいは中高度人材といったところを求めている。あるいは、送り出したいという教育機関や送り出し機関というのがあって、そういったところからいきなり（人材を）送るというよりも、例えば、少しインターンシップ的なものを自治体なり公的などがサポートしてもらえないかというのは要望として非常に多かったと理解しています。

やはり、こう言うてはあれですけども、必ずしもいい事業者が（人材を）送り出しているとは限らないわけで、いろんなトラブルが発生しているとも聞いていて、現

地でもそういう声は聞かれました。そこに、自治体としての一定の信用力があるところと覚書だとかを結ぶことによって、信頼できるパートナーといい人材を、いい企業にとか、あるいは学校にといい、そういう橋渡しが求められていました。そういう意味で、自治体しかできない役割をどう考えていくかなという課題は認識しましたし、これは早く宿題というか、考えなくてはいけないなというところで、視察したメンバーで近いうちに集まって、課題整理をして取組につなげていきたいと思えます。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【司会】 ほかはいかがでございませうか。

《JR南武線武蔵小杉駅へのホームドア設置について》

【幹事社】 さっき聞けばよかつたんですけど、武蔵小杉駅の乗降客数って把握しているものはありますか。

【市長】 横須賀線と南武線を合わせた乗降客数ですけれども、南武線だけのほうがいいですか。

【幹事社】 両方わかればと思えます。

【市長】 合わせた乗降客数は26万1,504人です。18年度でございませう。

【事業推進・小杉駅混雑対策担当課長】 別々の乗降客数は公表されておられません。

【幹事社】 18年度ということは平均ということですか。

【市長】 1日当たりの平均です。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。

【幹事社】 何かありますか。

《公園利用不許可を巡る訴訟関連について》

【記者】 先日、3年前に川崎市中原区の公園で計画されていたデモの申請を市が許可しなかつたことが、表現の自由の侵害だという提訴の第1回口頭弁論が川崎支部で開かれました。訴状は既に届いているかと思えるんですけども、まだ結論は司法の場ではおられませんうが、これに対して受けとめのお話をお聞かせいただければと思えます。

【市長】 係争中のことであるのでコメントは差し控えさせていただきたいと思えるんですけども、今、訴訟代理人と協議して、本市の主張が認められるように適切に対応していきたいと思えます。

【記者】 ありがとうございます。

【幹事社】 ほかはありますか。ないですか。ありがとうございました。

【司会】 どうもありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355